



かわさきし まなかい ちなかはらく くない しょうでんがい
川崎市のほぼ真ん中に位置する中原区。区内では、商店街や
りようどう かせんじき みちか かんきょう とく
緑道、河川敷など、身近なところから環境をよくする取り組みを、
くみん しゅやく すす
区民が主役となって進めています。

みんながいろんな方法で環境を守っているよ！

エコなまちづくりが進むモトスミ

かんきょう はいりよ
環境に配慮することを“エコロジー”といいます。エコロジーな取り組みをまち全体で行っているのが元住吉駅周辺
です。このまちの中の国際交流センター、小学校、商店街、駅舎、それぞれの取り組みを見てみましょう。

①市民共同おひさま発電所

ねん へいせい ねん かわさき しきくさいこうりゅう
2008年(平成20年)川崎市国際交流センターに
たいようこうはつうんぞうち でき やくキロワット
太陽光発電装置が出来ました。(約7KW)

これは、環境問題に関心のある市民と企業の
きふ 寄付やグリーン電力基金によって「市民共同発
でんしょ てんりくききん しのみんきぎょうの
電所」として完成了しました。

しじん 自然エネルギーを使って発電する仕組みは、
ちやうあんданかほうしどうかさいたい
地球温暖化防止の効果が期待できます。

国際交流
センター

②小学校の取り組み

いだ しゃがつこう
井田小学校では、P T Aの廃品回収や小学生の
かんかいじょう かつどう ええ かね
アルミ缶回収などの活動により得たお金で、2006年
(平成18年)には校舎の屋上に太陽光発電設備を設
ち 置し、2011年(平成23年)には目標の30枚の太陽光
せつち たっせい
パネルの設置を達成しました。

小学校

モトスミ・ブレーメン通り商店街

③商店街の取り組み

かんきょう ほんたい おこな
環境問題に関し厳しい基準を持っているドイ
ツ・ブレーメン市のロイドパーサージュ商店街との
ともだい とく はじ
友好をきっかけに、ブレーメン通り商店街で環境
問題への取り組みが始まりました。

日本で最初のエコバッグキャンペーン(買い物
ぶろじさんうんどう はうでんがい みせ かんきょう かづ
袋持参運動)や、商店街のお店が、環境にい活動
どう ねんかん もくひか じつせん てん
を年間の目標にし、実践するという「1店1エコ
うんどう おなな
運動」を行っています。

④駅舎の取り組み

とう きゅうもとすみよしえき
リニューアルした東急元住吉駅のホームと
やね キロワット たいようこうはつでん
コンコースの屋根には、140KWの太陽光発電
せつち
システムが設置されています。
また、トイレの水洗に雨水を利用したり、駅
こうない りょくか とく
構内の緑化にも取り組んでいます。

花と緑があふれるまちに

～なかはら20年構想委員会～

2002年(平成14年)に、区民のみなさんが話し合ってまとめた“未来の中原区”を、少しずつ実現するため、「なかはら
20年構想委員会」は誕生しました。

●どんなことをするの？

むし
昔からパンジーが特産品の中原区。そこで、花と緑を増やしながら
きうど あいぢくも
郷土に愛着を持ってもらおうと、区内の農家と協力し、区民に区の花
パンジーをいろいろな場所に植えてもらって花の回廊をつくる活動
をしていきます。また、楽しみながら歩いて地域を知る「なかはら歴史と
みどり さんぱ
緑の散歩マップ」や「小杉今☆昔WALKING MAP」も作っています。

さい かいはつ
再開発でたくさんのマンションが建てられている武藏小杉駅周辺
かふどう おし す ひと あたら ひこ
では、これらの活動が、昔から住んでいる人たちと新しく引っ越してきた
ひと こうりょう ば
人たちとの交流の場にもなっています。



農家の方々から託されたパンジーが再開発のまちにも咲いているよ

たまがわ しせん たからもの 多摩川には自然の宝物がいっぱい！

みずべがっこ ～とどろき水辺の楽校～

ひとびと せいかつはいよいよ い もの へ たまがわ い もの ふ ひんざい
人々の生活排水によって生き物が減ってしまった多摩川ですが、現在
けすいどう せいひ かんきょう かいふく ふたたび い もの ふ
では下水道が整備されたことにより、環境が回復し、再び生き物が増え
みずへ がっこう せんゆた たまがわ もど
てきました。「とどろき水辺の楽校」は、自然豊かな多摩川をとり戻して、こ
どもたちが遊んだり自然や環境問題について学んだりする場をつくろう
あそ しせん かんきゅもんたい まな ば
かつどう しのみ
と、活動している市民グループです。



いものさが
たのめあ
生き物探しの「ガサガサ体験」

●どんなことをするの？

みずべ がっこ たまがわ どては くさばな かんさつ
水辺の楽校では、多摩川の土手に生えている草花を観察したり、その
くさばな じっさい てん た まよしつ やうちかんさつかい
草花実際に天ぷらにして食べてみたり、カヌー教室や野鳥観察会な
たまがわ ふ あ たの ひとり かわ はい
ど、多摩川と触れ合う楽しいイベントがもりだくさん！一人で川に入るの
あぶ いつしょ かわ はい あんしん あそ
は危ないけれど、ボランティアのみなさんが一緒に川に入って、安心して遊べるように見守っています。

●水辺の楽校は他の場所にも！？

かわさきしない なかはらく たまがわ かせんじき かつどう みずべ がっこ たまく にかりう かんしうへん
川崎市内には、中原区の多摩川河川敷で活動する「とどろき水辺の楽校」と、多摩区にある「二ヶ領せせらぎ館」周辺で
かつどう みずべ がっこ かわさき たまがわ かこういき きよてん ごめ みずべ がっこ ねん へいせい
活動する「かわさき水辺の楽校」があり、川崎区多摩川河口域を拠点とした3校目の「だいし水辺の楽校」も2010年(平成
ねん)からスタートしました。お父さんやお母さん、お友達と一緒に、水辺の楽校で色々な体験をしてみませんか？

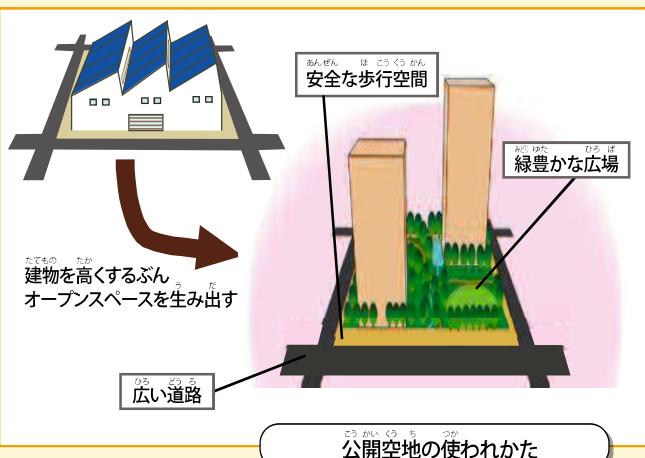
トピックス3

まちが変わるよ～武蔵小杉駅周辺再開発～

むさしこすぎえき まわ いま さいかいはつ すす みんかん かいしゃ し きょうりく じうたく けんきゅうかいはつ しょきょう
武蔵小杉駅の周りでは、今「再開発」が進んでいます。民間の会社と市が協力しながら、住宅、研究開発ビル、商業
しせつ みずべ がっこ かわさき たまがわ かこういき きよてん ごめ みずべ がっこ ねん へいせい
施設などをつくなっています。地域全体をいくつかの地区に分けて、どこにどんな道路や建物を作るか長い目でみた
けいかく しない さいだい きほ さいかいはつ すす
計画をたてながら、市内で最大規模の再開発が進んでいます。



2012年(平成24年)10月の武蔵小杉駅周辺地区の様子



★みんなの広場！公開空地！

昔は、グランドや工場だった場所にたくさんの中層ビルができて、たくさんの人たちが働いたり住んだりするまちが
むかし こうじょう ぱしょ こうそう ひと はたら す
できます。こうして大きな建物を建てるときは、暮らしやすいまちになるように、いろいろな工夫をしています。

武蔵小杉駅周辺地区では、建物を高くするぶん、地上にオープンスペースを多く設けて、そのオープンスペースを利
むかし こすぎえき しゅへんちく たてもの たか おおもう せいいひ
用して、道路を広くしたり、木や花を植えたりする広場や歩行空間などを整備したりしています。

この広場や歩行空間は、公開空地と呼ばれています。みんなが安全で豊かな生活ができるよう、いつも解放されて
ひろば は こうくうかん こうかいくうちよ あんぜん ゆた せいかつ かはう
いて、誰でも使うことができます。みんなが憩えるまちになっているんですね！

まちづくり事例だよ！